



日本風景街道「ながさきサンセットロード」の取り組み紹介

長崎県 土木部 道路維持課

1. はじめに

日本風景街道とは、地域住民、NPO、企業、行政などの関係者が協働して、道を舞台に、自然、歴史、文化などの地域資源を活用して美しい国土景観の形成を図り、地域の活性化や観光の振興への寄与を目指す取り組みです。平成31年3月末時点で全国142ルートが活動を行っており、長崎県には今回ご紹介する平成19年度に登録された「ながさきサンセットロード～橋でつながる教会と歴史の道～」と平成31年3月18日に142番目のルートとして登録された「島原半島うみやま街道～歴史と水と温泉のまち～」の2つのルートがあります（図1）。どちらのルートも平成30年7月に世界遺産登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産を有していることから世界遺産をキーワードに相互連携が図られることが期待されます。

本稿では、「ながさきサンセットロード」のこれまでの取り組みとこれからの取り組みについてご紹介します。

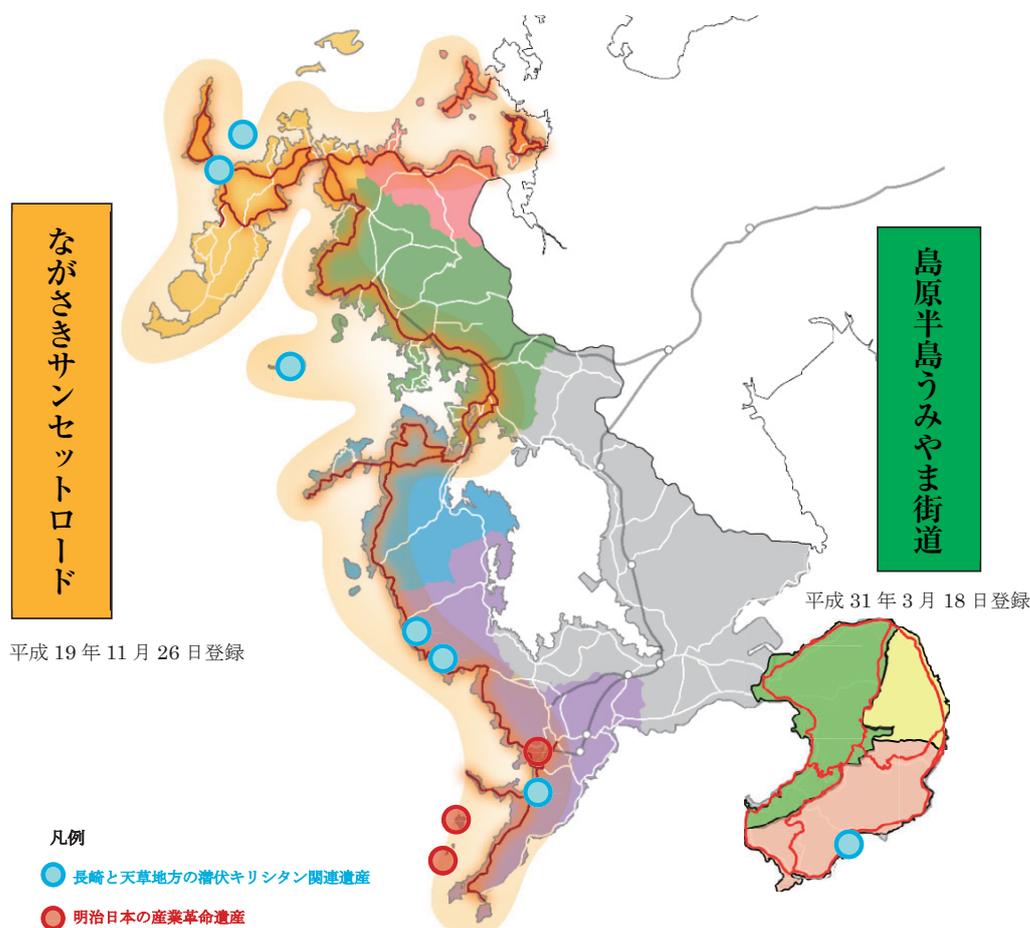


図1 長崎県の風景街道

2. これまでの取組

ながさきサンセットロードは、長崎県西部の美しい海岸沿いの道路（国道 202 号、国道 499 号等）をメインとしたルートであり、沿線地域の夕日や教会、橋などの美しい景色、歴史的、文化的資源を活用したイベントの企画、景観の保全等の活動を行っています。メインルートは延長約 340 kmあり、エリア内に 5 市 1 町の自治体があります。風景街道を活用し各地域の景観・歴史・文化・食など大小様々な魅力の再発見や情報発信に取り組んでいます。具体的には約 60 の活動団体と行政で地域毎に連絡会議を開催し、景観上支障となっている箇所抽出や一斉清掃イベントの実施内容について検討しています。さらに地域間の連携・協働する場として地域活動団体代表者、行政、道路管理者、道守、大学等の関係者で「ながさきサンセットロード推進協議会（以下、推進協議会）」を組織し、活動方針に基づきビュースポットやルート案内看板の整備検討、一斉清掃やフォトコンテスト、バスツアー等のイベントを企画・運営しています。

さらに、持続的な活動を目指すため平成 28 年 10 月 13 日に人的・資金的支援を行う民間団体「ながさきサンセットロード振興会（以下、振興会）」を設立し、国・県と共に推進協議会の運営を支援しています（図 2）。

次に推進協議会で提案され、実現した取り組みをご紹介します。

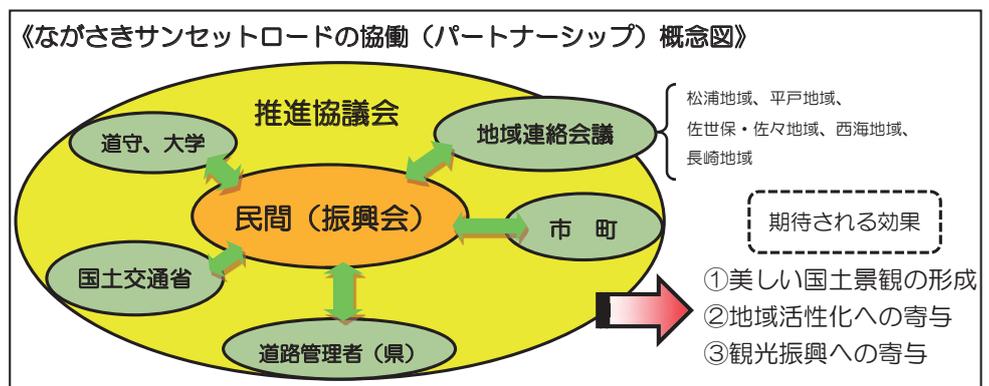


図 2 パートナーシップ概念図

■ビューポイント、看板の整備

ルート登録以前から夕日の絶景スポットの提案を受け、ビューポイントの整備を行ないました（図 3）。また、景観に対する意識の向上や簡易パーキング等の施設整備内容への反映を目的に各地域で景観診断ツアーも実施しました。

さらに、推進協議会でのルート案内看板の検討・提案を踏まえ、道路管理者の県がルートの沿線に設置を行いました（写真 1）。これによりルート名称の認知度は飛躍的に向上しました。



図 3 ビューポイントの整備



写真 1 ルート案内看板の設置

■ルート内一斉清掃イベント

平成 27 年度に「ながさきサンセットロード」の日(11月26日)を制定し、毎年その日に合わせたルート内一斉清掃イベントを開催しています(写真2)。地域の活動団体だけではなく一般参加を募って開催しており、交流人口の拡大や地域活性化にも寄与しています。毎年1,000名を超える方々に参加頂きイベントとして定着してきています。

平成 30 年度はルート沿線の 22 地域で前後の開催を含め 1,109 名の方々に参加して頂きました。



写真2 一斉清掃イベント終了後の様子

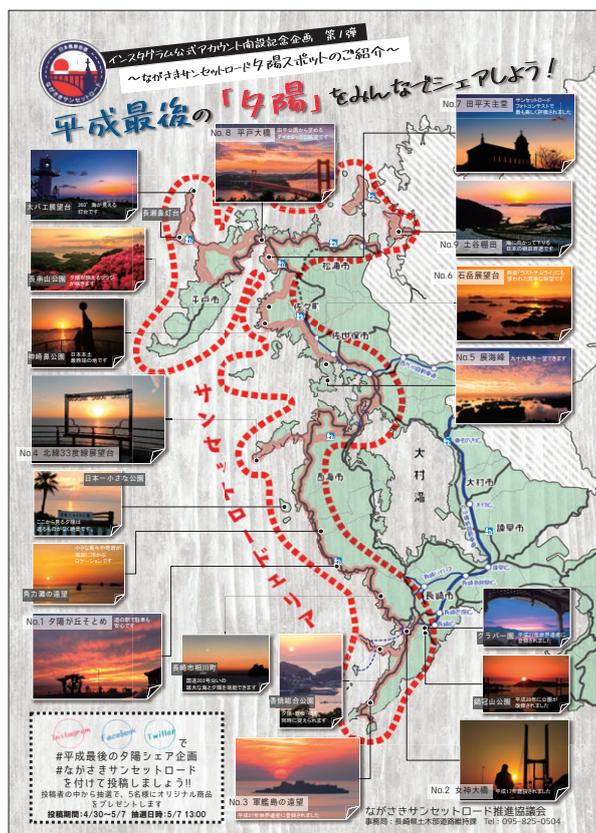


図4 平成最後の夕陽シェア企画チラシ

■その他広報

本ルートのパンフレットとして、ルートマップに夕日、橋、教会などの見どころを掲載した「みどころマップ」を企画・作成しています。ホームページに掲載するとともにルート沿線の道の駅などで配布しています(図5)。

また、県の広報部局と連携し、テレビ・ラジオ等を活用して風景街道と本ルートの取り組みを広く県民へ周知しています。

■フォトコンテスト、企画イベント

地域の魅力を発信するとともに、写真を撮りに本ルートに訪れていただく事を目的としてフォトコンテストを開催しています。これまでに計4回開催しており、応募いただいた写真をポスターやパンフレットに掲載しPRに活用しています。現在も令和元年6月から8月末まで開催しています。

また、マスメディアに取り上げて頂けるように時機を捉えたイベントも企画しています(図4)。



図5 みどころマップ

■バスツアー（サンセットクルーズ）

地域の観光資源の再発見と磨き上げを目的に、地区内観光バスツアーの事業化を目指して「地域再発見ツアー」を県内5地区で各1回ずつ開催しました。このツアーの経験を生かしてグリーンツーリズムとタイアップした一般参加型のサンセットクルーズツアー（写真3）や他の風景街道との合同ツアーを開催し、観光資源の活用と認知度向上により更なる地域活性化を目指しています。



写真3 サンセットクルーズの様子

3. 取り組みの成果

10数年の活動において全て順調に進んだわけではありませんが、平成23年度、27年度に九州風景街道推進会議の制度である年間優秀活動賞を受賞し、平成30年度には世界遺産を活用した新たなツーリズムの取り組みが評価され3回目の受賞を果たしました（写真4）。また、MSB（マスター・オブ・シーニック・バイウェイ）には21名、九州風景街道マイスターには現推進協議会会長である坂本道德氏をはじめ3名が認定されており、連携・協働の下で少しずつではありますが、前進しているのではないかと感じています。



写真4 平成30年度九州風景街道マイスター認定証授与式と年間優秀活動賞の様子

4. これから取り組むべきこと

これまでの取り組みや成果から分かったことは継続することの難しさや重要性です。継続には道路管理者や地域行政の支援が不可欠ですが、風景街道を継続させるためには人材や資金面において持続的な体制を構築することも重要です。そのために振興会といった支援組織が必要であり、風景街道の目的を地域の方々に知ってもらいあらゆる世代の仲間を増やしていくことも必要になってきます。そこで、九州風景街道マイスター、MSBの方々の経験を引継ぎ・実践していく人をより多く増やしていくため、新たな年齢

層に知っていただく取り組みを始めています。その一つがSNSによる情報発信の強化です。これまで協議会で運用していたフェイスブックやツイッターに加えて公式インスタグラムを新たに開設し、若年層の世代にもアプローチする機会を増やしました。知ってもらうためにはイベントが欠かせませんのでインスタグラム開設記念企画としてインスタグラムフォトコンテストを令和元年6月から開催しています（図6）。

また、世界遺産を活用したツーリズム、景観の維持を継続していくことも重要です。世界遺産の登録効果は数年で落ち込むとよく言われますが、世界遺産に至る道、世界遺産と暮らすまちを維持していくためには地域を活性化させることが必要です。その点においても風景街道が果たす連携・協働の役割は重要なものとなってきます。その際、道の駅や道守が持つ連携活動拠点、情報拠点、人材輩出拠点の機能と連携させることで地域の活性化が図られるものと考えています。

最後になりますが、今後も官民連携した取り組みを行っていけるよう道路管理者としてパートナーシップを支援してまいります。



図6 インスタグラムフォトコンテスト